

平成30年度
第4回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化処理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：平成31年3月4日（月） 13:00～15:10

場所：TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター カンファレンスルーム2B

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長	大迫 政浩
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 基盤技術・物質管理研究室 室長	倉持 秀敏
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	高岡 昌輝
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	米田 稔

議事要旨

I 本日の議事

1. 安達地方における農林業系廃棄物等処理業務（減容化処理）について
2. 開閉所農林業系廃棄物処理業務（減容化処理）について

II 検討内容

1. 安達地方における農林業系廃棄物等処理業務（減容化処理）について

冒頭、日立造船・大林組特定共同企業体（以降、日造・大林 JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 異物混入対策について

委員より、異物（不燃物）の混入により施設の運転に支障が生じないかとの質問があった。日造・大林 JV より、処理対象物は異物混入の可能性が低いと考えられ、仮に異物が混入した場合はフレキシブルコンテナの中身を出して広げ、除去することから異物の混入によって施設の運転に支障をきたす可能性は極めて低いと考えているとの回答があった。

(2) 仮設灰保管施設での放射線管理について

委員より、仮設灰保管施設における放射線対策はどのように行うのかとの質問があった。日造・大林 JV より、仮設灰保管施設の周囲の壁を厚さ 600mm のコンクリート製の遮へい

壁とし、放射性物質濃度の高いばいじんを中央に保管することで、放射線による影響が外部に及ばないようにするとの回答があった。

(3) 主灰冷却水の水質管理について

主灰を消火・冷却するための冷却水に放射性セシウムが溶け出して蓄積していくことも考えられるため、冷却水の性状を確認していく方が良いとの助言があった。

2. 開閉所農林業系廃棄物処理業務（減容化処理）について

冒頭、三菱・大林・東亜共同企業体（以降、三菱・大林・東亜 JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 仮設焼却施設における助燃バーナについて

委員より、仮設焼却施設における現在の助燃バーナ出力は妥当なものか、との質問があった。三菱・大林・東亜 JV より、主な処理対象物である牛ふん堆肥の性状が大きく変動するため、余裕を持たせた出力で運転しており、処理対象物の特徴に応じた妥当なものと考えているとの回答があった。

(2) 乾燥設備導入後の処理量について

委員より、乾燥設備導入後の一日当たりの処理量はどのようになるのかとの質問があった。三菱・大林・東亜 JV より、本施設の定格処理能力である一日当たり 60 トンの処理が可能となるが、乾燥設備によって水分が蒸発するため、焼却炉への投入量は一日当たり 35 トン程度になると見込んでいるとの回答があった。

(3) 主灰の封入について

委員より、牛ふん堆肥の性状の違いは、主灰の性状等の違いに影響するかとの質問があった。三菱・大林・東亜 JV より、牛ふん堆肥の性状によって主灰の性状や封入に要する時間が変わるが、これまでの性状の把握や運転調整によって改善が図られてきているとの回答があった。

以上